

第12回「薪・牧・巻」 トリプルまきフェスタ くずまき高原森林の恵みフォーラム

体験通じ森林への理解深める



町産業振興協議会（会長、鈴木重男町長）主催の第12回「薪・牧・巻」トリプルまきフェスタは10月6日、「こいわの森」と「森のこだま館」周辺で開催され、町内の児童や町内外の林業関係者など約230人が参加しました。

開会セレモニーで鈴木町長は「町が持っている機能を活用した町づくりをしています。いろいろな角度から自分たちの町を考える機会にしてください」とあいさつ。牧元幸司林野庁長官が祝辞の中で「森林をうまく活用しながら植林し、次の世代である皆さんが使えるように、育てていかなければならない大事な時期を迎えています」と子どもたちに、森林と人との関わりを分かりやすく伝えました。

まき収穫と伐採体験 子どもたちの声響く
森林とのふれあい体験では「こいわの森」に移動し8班に分かれて、まきの収穫と伐採を体験しました。まきの収穫では、声を掛け合いながらまきを手渡す

子どもたちの元気な声が響き渡り、伐採体験では、真剣な表情でのこぎりに力を込める姿が印象的でした。伐採を体験した山本大稀くん（五日市小5年）は「楽しかった。木の芯に当たったとき、力を入れないと切れなくて疲れたけど、またやりたいです」と切り倒した木を見つめ、充実した表情をのぞかせていました。

講演会で理解深める 守り育てる大切さ

昼食の後に行われた森の音楽会では、町内の年長児がバイオリン演奏を披露。子どもたちの堂々とした演奏姿に大きな拍手が沸き起こりました。

また、講演会には、林業関係者など約50人が出席。盛岡広域振興局の伊藤節夫林務部長が「森林環境税について」と題して講演。新たな税制度や国内の森林整備の実情、国全体で森林を利活用し、守り育てていくことの大切さを説明しました。参加者たちは、時折うなずき、森林への理解を深めていました。



①真剣な表情で伐採する木を選ぶ児童②楽しみながらまき運びをする参加者たち③講演会の様子と講師の盛岡広域振興局伊藤林務部長（内内）④森の音楽会でバイオリン演奏を披露する年長児たち



第11回くずまきワイン森林の収穫祭は10月13日と14日の2日間、(株)岩手くずまきワイン内の特設会場で開催され、町内外から約600人が来場し、くずまきワインや多彩なイベントを楽しみました。収穫祭でしか味わえない新酒の「こりワイン」は、これを目当てに来場した人もあり大人気。ワイングラスを片手に順番を待つ人が後を絶ちませんでした。また、ワイン娘のぶどう踏みには、葛巻型インターンシップで来町した青木萌花さん（県立大学盛岡短期大学部1年）が参加。会場中の注目を浴びながら慎重にブ

秋の恵みに感謝 第11回森林の収穫祭



①ワイン通で知られる辰巳琢郎さんによる乾杯②秋の味覚を堪能する来場者のみなさん③注目を浴びながらブドウを踏みしめるワイン娘④収穫祭限定の「こりワイン」をグラスに注ぐ来場者⑤ヤマブドウの収穫を楽しむ子どもたち⑥(株)岩手くずまきワインの新品として紹介された「褒美」とラベルの文字を書いた大沢桃子さん



ドウを踏みしめていました。初日のメインセレモニーでは、糖度27%の原料を使用した新商品のワイン「褒美」がお披露目されました。くずまきワインで使用しているヤマブドウの糖度は通常16から18度。褒美の原料は、平成27年に鍋倉地区の圃場で収穫した、くずまきワイン製造以来最高の糖度のもので使用しています。ラベルの文字は、くずまき高原牧場まきは大使で書道8段の演歌歌手、岩手県出身の大沢桃子さんの直筆。この日は、持ち歌を披露したほか、ふるさと納税も納めてくれました。

同時開催の収穫体験 秋の恵みの魅力発信
収穫祭に合わせて行っている収穫体験の初日には「くずまき山ぶんどくクラブ」の19組の親子連れらが参加し、収穫とワインの仕込みを体験しました。毎年家族で参加している八重畑優輝くん（岩手大附属小4年）は「背が高くなつて、去年よりもヤマブドウが採りやすくなった」と慣れた手つきで次々と収穫。「来年も絶対来たい！」と目を輝かせていました。

※「褒美」ワインは11月15日まで限定1000本の完全予約販売をしています。